令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県南会場

科目　⑤児童期（６歳～１２歳）の生活と発達

◆　学童期の初めは、家族以外の人間関係ができていくのに言葉や思考がまだ築かれておらず、自分中心に物事を考えること、中学年では個人差が出てきて仲間を作ろうとすること、高学年では精神的な自立と依存のはざまにいることなどを学びました。対応法では具体的な目安をつくりコントロールの仕方を教えたり、仲間はずれをつくらないようにいろいろな係を決めたり、良いところは認めて子どもに任せつつ、困ったときには頼ってもよいことを伝えたいと思います。

◆　講義の中で「となりのトトロ」の話があった。私が子どもの頃はただ楽しく見ているだけだったが、大人になって改めて見ると忘れていた気持ちがよみがえり、深く感動したことを思い出した。児童期の子どもたちは、生活の中で起こる様々な事柄を発達課題だとは感じずに過ごしているだろう。課題を達成したり出来なかったりする中で、大人ができることは何か。彼らの行動を近くで見守り、励ましを持って支援していきたい。

◆　発達心理学という観点から子どもを捉えるということで、２人の学者が考えた人間の発達理論から、児童期の特徴を捉えることを学びました。それぞれの発達段階ごとにある、社会に適応するために必要な発達課題を理解すると子どもの心の特徴や問題の意味が分かり、小学校の学年区分に照らし合わせながら一人ひとりの子どもの発達過程を理解する目安として、適切な対応方法で日々努力していきたいと思いました。

◆　発達段階ごとに成し遂げなければならない課題があり、それが未解決で終わるとその後に心理的不安定になるということを学んだ。特に１歳くらいまでの母親への信頼・不信感は一生を通して持続し、思春期や青年期に影響を及ぼし、自分を心配してくれるか試す行動をとったりする。「小１プロブレム」の特徴や対応について学んだので、時計など具体的な物を使って説明したり、セルフコントロールの仕方を教えたり早速実践したい。

◆　この講義を聞きながら自分が働いている学童クラブの子どもたちの顔を思い浮かべていました。主に低学年の子どもたちなのですが、なるほどと思えました。１・２年生の自己主張、３年生のギャングエイジ、まさに学童の子どもたちは成長の真っ盛りだと思いました。これからも子どもたちを見守りながら、良いところを思いきりほめて、彼らの成長の一端になりたいと思います。